

南西諸島における陸生・陸水生カメ類の分布

嶋津信彦 (しまづ外来魚研究所 / 放送大学)・山川 (矢敷) 彩子 (沖縄国際大学)

Distribution of terrestrial and freshwater turtles on the Ryukyu Islands

By Nobuhiko SHIMADZU and Ayako YAMAKAWA (YASHIKI)

南西諸島に分布する陸生・陸水生カメ類は、イシガメ科のクサガメ、ニホンイシガメ、ミナミイシガメ、セマルハコガメ、リュウキュウヤマガメ、ヌマガメ科のアカミミガメ、スッポン科のニホンスッポンの計3科7種である。これらのうちクサガメ、アカミミガメ、ニホンスッポンは外来種である。他の4種は、南西諸島に自然分布域を持つ。しかし、自然分布域外に導入され、一部で定着している。イシガメ科の雑種と疑われる個体 (以下推定交雑個体) も野外から見つかっている。本研究では、文献・現地調査によりこれらの分布を明らかにし、外来カメ類の定着、在来カメ類への競争や交雑による影響などを評価した。

陸生・陸水生カメ類の分布記録は、1891-2015年に発行された文献192報および新聞記事などから抽出された。結果、35島から報告されており、在来カメ類の分布域や鹿児島県の島嶼および大東諸島では近年の詳細な記録が不足していた。現地調査は、2015年5-10月に計43島で行われた。分布の確認は、カニ網を主とし、手網または素手による採集、および目視により確認された。結果、31島から延べ2,031個体が確認された。外来カメ類は、セマルハコガメとリュウキュウヤマガメを除き各種ではじめて記録された島があった。一方で再確認されなかった集団もあった。クサガメは、喜界島を除き少数または局所的に確認された。喜界島ではニホンイシガメとの推定交雑個体と共に多数確認された。ニホンイシガメは、自然分布域の種子島では広域から多数確認された。他の島における本種の定着は、確認個体数が少ないため、認められなかった。ミナミイシガメは、沖縄県の多くの島嶼から確認された。クサガメとミナミイシガメの推定交雑個体は、3島で親種とともに確認され、自然下で交雑したと示唆される。同交雑個体は、ミナミイシガメの自然分布では確認されなかったが、クサガメが確認された石垣島では今後確認される可能性が高い。リュウキュウヤマガメは、自然分布域である渡嘉敷島から1個体も確認されなかった。また、本種の自然分布する沖縄島北部からクサガメとミナミイシガメが確認されており、これらとの交雑による遺伝子汚染が危惧される。アカミミガメは、沖縄島の一部や宮古島、伊是名島、大東諸島では高密度で確認された。ニホンスッポンは、4島で再確認できず、新たな分布も確認されなかったことから、分布の縮小が示唆される。